

# 南山城地域における後期有力首長墓の動向

－久津川古墳群を中心に－

小 泉 裕 司

2021 8月

公益財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター

# 南山城地域における後期有力首長墓の動向

## －久津川古墳群を中心に－

小泉 裕司

### 1. はじめに

久津川古墳群は、宇治市伊勢田・広野地域から城陽市富野地域にかけての木津川や巨椋池と木津川東岸の沖積平野を意識した丘陵上や木津川に流下する河川の扇状地に、前期から後期に築造される古墳群である。また一本松古墳や梶塚古墳、箱塚古墳の前期古墳に堅穴式石槨、宇治西山古墳や上大谷12・17号墳、尼塚5号墳の終末期古墳に横穴式石室が採用されるが、大半の古墳は粘土槨や木棺直葬を埋葬施設としており、原則的に石材を使用した埋葬施設を採用しない。久津川車塚古墳の埋葬施設も長持形石棺の両小口に小石室を取り付けるが、構造上は石棺直葬である。古墳群は、宇治丘陵から木津川へ流下する名木川、大谷川、大河原川の流域ごとに3支群に分かれる。宇治市広野地域の名木川流域の丘陵上及び丘陵先端の低台地上とその北側の宇治市伊勢田地域の低台地状丘陵上に立地する広野支群、城陽市平川・久世地域の大谷川扇状地上とその両岸丘陵上に立地する久世支群、城陽市富野地域の大河原川流域の両岸丘陵上とその南側の低台地状丘陵上に立地する富野支群である。

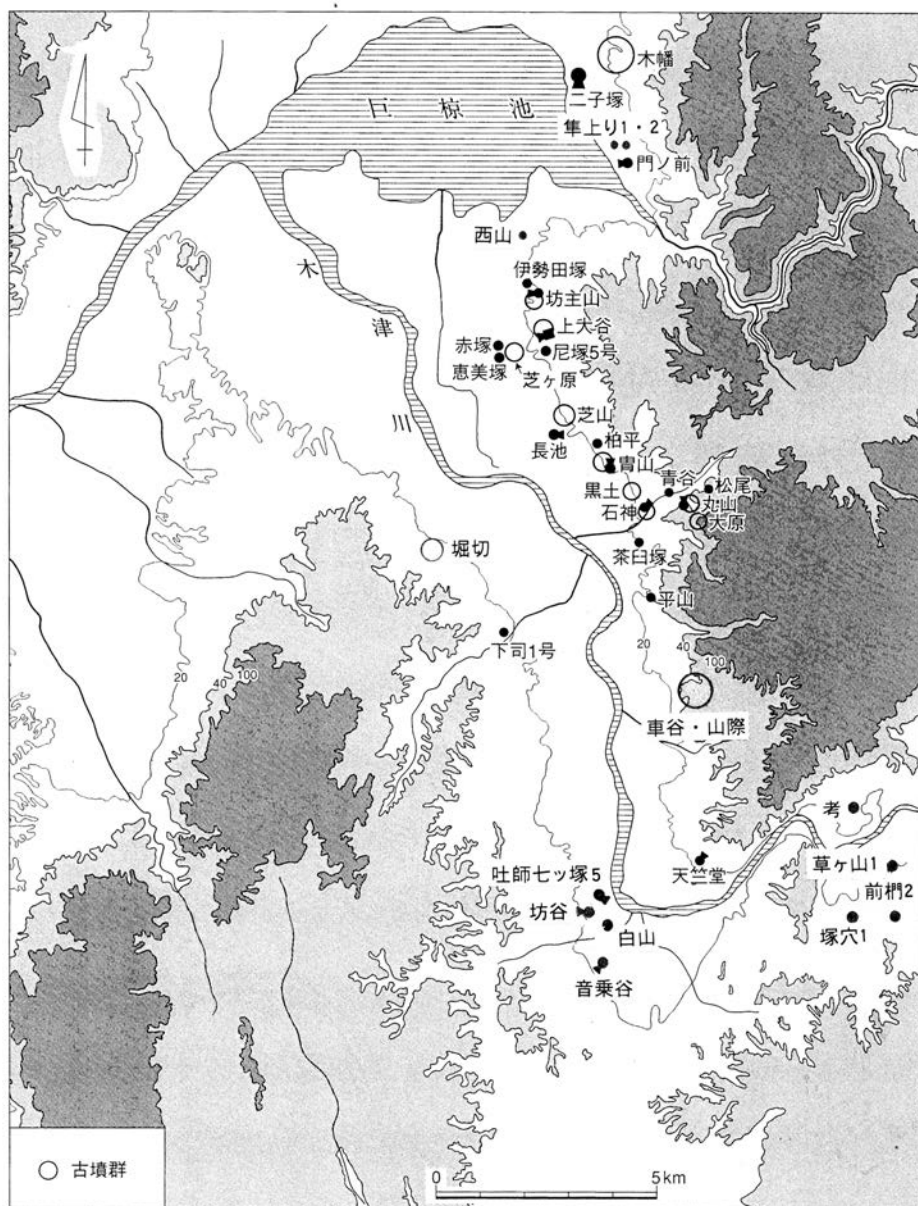
南山城地域における後期有力首長墓の動向について久津川古墳群を中心にみていくことで、南山城地域における古墳時代後期の有力首長による地域支配を概観したい。

### 2. 時期区分

今回使用する時期区分は、和田晴吾氏が提示された古墳編年を基本としている。和田氏は古墳時代を11期に区分し、古墳時代後期を9期（陶邑編年TK23型式－TK47型式）、10期（陶邑編年MT15型式－TK10型式）、11期（陶邑編年MT85型式－TK43型式－TK209型式）とした。これを基本として、11期以降を終末期（飛鳥・平城宮編年飛鳥Ⅰ～Ⅴ期）とする。おおまかな年代観は、9期を5世紀第4四半期、10期を6世紀前半、11期を6世紀後半、終末期を7世紀とする。

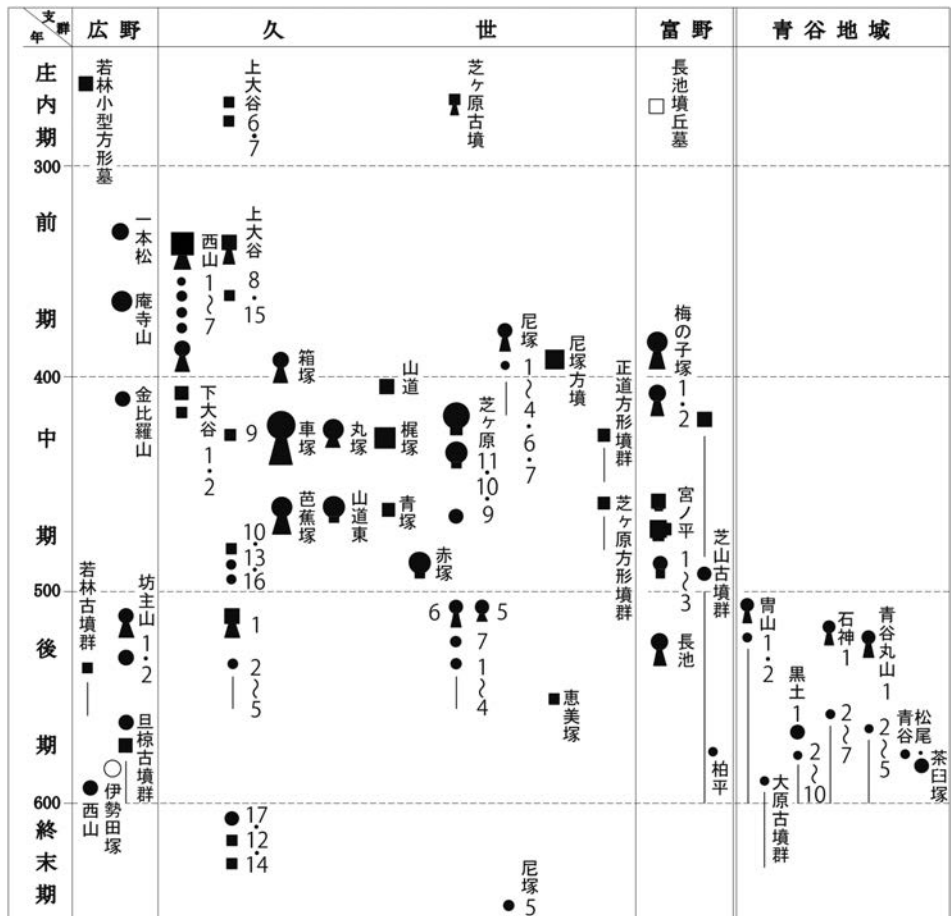
### 3. 久津川古墳群における後期有力首長墓の動向

#### (1) 広野支群



第1図 南山城後期古墳分布(『城陽市史』第1巻 図70に修正・加筆)

9期末から10期には、宇治市広野の丘陵尾根先端に坊主山1～3号墳が築造される。東から前方後円墳1基(1号墳)と円墳2基(2・3号墳)が東西方向に一直列に位置する。坊主山1号墳は、墳丘長45mの前方後円墳で、葺石は施されないが円筒埴輪・形象埴輪が樹立される。発掘調査報告書(京都府教育委員会1965『埋蔵文化財発掘調査概報』)では段築は認められないとされているが、墳丘測量図や円筒埴輪列が墳丘裾部から約1m高い位置に



第2図 久津川古墳群変遷図

樹立されていることから墳丘は2段に築かれていた可能性がある。埋葬施設は木棺直葬で、棺外からTK47～MT15型式の須恵器が出土している。坊主山2号墳は、1号墳の前方部から約20m西に位置する直径約25mの円墳で、葺石・埴輪は施されない。埋葬施設は、東西に並ぶ2基の木棺直葬である。西棺の墓壙は東棺より1m程深く掘り込まれており、棺外からMT15～TK10型式の須恵器が出土している。坊主山3号墳は、2号墳の西に隣接する直径約5mの小円墳で、未調査のため詳細はわからない。

11期には名木川扇状地に巨椋古墳群(10～20mの円墳7基・一辺約9mの方墳1基、埋葬施設は木棺直葬と推定される。)が築造されるが、10期後半から11期には顕著な有力首長墓はみられない。

11期末から終末期には、巨椋池を望む丘陵斜面に宇治西山古墳が築造される。宇治西山

古墳は直径16～18mの円墳で、南東に開口する両袖式横穴式石室を埋葬施設とする。玄室の奥半部が調査されていないため正確な石室規模は不明であるが、石室全長は8～9mと推測される。古墳に伴う出土遺物はないが、石室構造や墳丘規模などから11期末から終末期に築造されたと推定される。

## (2)久世支群

10期から11期前半には、大谷川扇状地の南側丘陵先端に芝ヶ原1～7号墳、大谷川扇状地最奥部の北側丘陵斜面上に上大谷1～5号墳が築造される。

芝ヶ原1～4号墳は丘陵先端に墳丘裾部を接するように築造された直径16～18mの円墳で、現状では段築・葺石・埴輪は確認されていない。芝ヶ原5～7号墳は、丘陵先端から東へ広がる平坦部にやや間隔を開けて築造されている。芝ヶ原6号墳は最も東に位置する全長約35mの前方後円墳、5号墳は6号墳の西約10m位置する全長約22mの前方部が短い前方後円墳、7号墳は5号墳の南約17mに位置する直径約18mの円墳である。芝ヶ原5～7号墳も、現状では段築・葺石・埴輪は確認されていない。芝ヶ原1～7号墳は未調査のため、築造時期や埋葬施設を知る手がかりはないが、墳形や規模から10期に築造された木棺直葬を埋葬施設とする古墳と推定される。前方後円墳である5・6号墳と近接して単独で築造された円墳の7号墳は、有力首長墓と考えられる。また丘陵先端に密集して築造される芝ヶ原1～4号墳は、芝ヶ原5～7号墳の有力首長を支えた有力者により築造されたと考えられる。

上大谷1～5号墳は、大谷川扇状地最奥部の北側丘陵斜面上に立地し、前方後方墳1基と円墳4基で構成される。1977年に試掘調査が実施され、段築はなく葺石・埴輪も施されていない。上大谷1号墳は墳丘長約33mの前方後方墳で、丘陵斜面上部にあたる北及び東側に掘り割り状の周溝がみられる。墳形については試掘調査により確定されたが、調査以前に墳丘の改変が著しかったことやトレンチによる部分的な調査であること、また丘陵斜面上に築造されたことによる墳丘の流失も考えられることから、前方後円墳の可能性もある。2～5号墳は、1号墳の東側周溝に隣接して墳丘裾部を接するように築造された直径11～18mの円墳である。3号墳の墳丘裾部からMT85型式の須恵器片が出土している。上大谷1～5号墳の埋葬施設は未調査であるが、墳丘が低いことや石材の露出がないことから、木棺直葬と推定される。築造時期は、僅かに出土した3号墳の須恵器片から11期前半と推定される。芝ヶ原1～7号墳と同様に、上大谷1号墳が有力首長墓、上大谷2～5号墳が上大谷1号墳の有力首長を支えた有力者の墓と考えられる。

大谷川扇状地には、指月塚古墳、東垣外古墳、欠山古墳、恵美塚古墳、北垣内古墳群(3基)、南垣内古墳群(4基)が存在したことが知られるが、東垣外古墳と恵美塚古墳を除き開墾な

どにより早くに削平され詳細はわからない。東垣外古墳は僅かに墳丘が残存しており、墳丘上でTK43型式の須恵器片が出土している。恵美塚古墳は一辺約14mの低墳丘の方墳で、木棺直葬の埋葬施設からはTK43型式の須恵器が出土している。これらのことから、11期には大谷川扇状地に木棺直葬を埋葬施設とする複数の古墳が築造されていたと推定されるが、有力首長墓に該当するような古墳は築造されなかったと思われる。

11期末から終末期には、上大谷古墳群(上大谷12・14・17号墳)と尼塚古墳群(尼塚5号墳)に横穴式石室を埋葬施設とする古墳が築造される。上大谷17号墳は丘陵稜線上に立地する直径約13mの円墳で、周囲には幅2～3mの周溝がある。石室は南に開口する左片袖式横穴式石室で、石室の残存長は9mを測る。石室内からTK209型式の須恵器が出土している。上大谷12号墳は丘陵南斜面に立地する一辺約15mの方墳で、斜面側にはコの字状の掘り割り(幅約2m)がある。石室は南東に開口する両袖式横穴式石室で、石室全長は8.5mを測る。石室内からは飛鳥I期の須恵器が出土している。上大谷14号墳は丘陵南斜面に立地する一辺約18mの方墳で、斜面側にはコの字状の掘り割り(幅約3m)がある。埋葬施設は未調査のため不明であるが、墳丘形態・規模から上大谷12号墳と同様の南に開口する横穴式石室と推定される。尼塚5号墳は、大谷川扇状地の南側丘陵の南斜面に立地する直径約8mの円墳で、斜面側となる北から西側に幅0.7m(西)～2.8m(北)の周溝がある。石室は南東に開口する横穴式石室で、南半は遺存せず、石室の残存長は約3mである。築造当時の石室床面には炭が厚さ1～5cm敷かれており、炭敷きから和同開珎1枚が出土している。

### (3)富野支群

10期に大河原川南側の芝山丘陵の南西先端部に全長50mの前方後円墳とされる長池古墳が築造される。後円部で2基、前方部で1基の木棺直葬の埋葬施設が確認され、後円部の埋葬施設からはMT15～TK10型式の須恵器が、また前方部の埋葬施設からはTK43型式の須恵器が出土している。しかし墳形については、近年、小池寛氏による墳丘測量図の詳細な検討が行われ、直径約25mの円墳とする見解が示されている。筆者もこの見解に賛同したい。芝山丘陵では、2020年度までの21次におよぶ発掘調査により墳丘を削平された37基の古墳が確認されている。埋葬施設は16基が木棺直葬で、埋葬施設が確認されなかった古墳についても周囲から石材が全く出土していないことから木棺直葬と推定されている。37基の内少なくとも13基が10～11期に築造され、大半が直径20m以下の円墳であるが、直径26.7mの円墳も1基存在している。また、これらの古墳の周囲では土壙墓も検出されている。これらのことから、長池古墳は芝山古墳群を構成する大型の円墳で、前方部の第3主体部とされたものは長池古墳の周囲に造られた土壙墓と考えられる。長池古墳は、同時期の有力首長墓と比較すると墳形や規模の点から有力首長墓との位置付けは難しいと思

われ、芝山古墳群での盟主墳の1基と考えられる。このため富野支群には、後期有力首長墓は存在しないこととなる。

芝山古墳群は、4世紀末から6世紀後半にかけて古墳が築造され、大半が20m以下の高塚墳と低墳丘墳で構成されていることが明らかとなってきている。複数の有力者集団の共通した墓域として芝山古墳群が造営されたと考えられる。未調査部分や土砂採取で削平された部分も含めると50基以上の古墳が築造されていたと推測され、久津川古墳群で最大の群集墳であり、また南山城地域においても最大級の群集墳といえる。

#### 4. 城陽市青谷地域における後期有力首長墓の動向

城陽市富野地域以南の長谷川流域と青谷川流域の青谷地域では、古墳時代前期・中期に築造された古墳はみられず、10期から古墳の築造がはじまる。これらの古墳は、発掘調査や現況から横穴式石室を埋葬施設としている。

冑山1号墳は、長谷川北側の青谷地域北端に位置する丘陵の南側斜面上に立地する。墳丘長30mの前方後円墳で、円筒埴輪・形象埴輪が樹立されている。埋葬施設は右片袖式の横穴式石室で、石室の残存長は7.6mを測る。石室内からは、MT15～TK10型式の須恵器が出土している。青谷地域で、最初に築造されたと考えられる。冑山2号墳は、1号墳の西約80mの丘陵先端に築造された直径約15mの円墳で、埴輪は樹立されていない。埋葬施設は左片袖式横穴式石室で、石室の残存長は6.5mを測る。石室内からは、MT15型式の須恵器が出土している。2号墳は墳丘測量図から全長25m前後の前方後円墳の可能性が指摘されている。この他に山砂利採取工事中に須恵器片や埴輪片、石材が出土した地点が5ヶ所あり、冑山3～7号墳とされている。この内、4号墳は1号墳の東北東約80mの丘陵頂部に立地し、石材や大刀形埴輪などの埴輪片が出土している。山砂利採取前の状況から全長50m程度の前方後円墳であったという観察もされている。

石神1号墳は、青谷地域の南端を木津川に向かって流下する青谷川の北側に広がる台地状の丘陵に立地する。墳丘の改変が著しいが、墳形は墳丘長約40mの前方後円墳で、埋葬施設は露出している石材から横穴式石室と推定されている。前方部先端部で調査が行われ、円筒埴輪が出土している。出土した円筒埴輪の大半が須恵質焼成のものであることから、冑山1号墳に後続して築造されたと考えられる。石神1号墳が位置する台地状の丘陵には、1号墳の東約80mに石神2号墳、1号墳の南西約250mに石神3～7号墳がある。2号墳は墳丘の大半が削平されるが、横穴式石室の一部が残存しており、TK43型式の須恵器が出土している。3～7号墳も墳丘の大半が削平され、横穴式石室と推定される石材が露出している。

青谷丸山1号墳は、青谷川南側の丘陵先端に立地する。墳丘長30mの前方後円墳で、埋葬施設は右片袖式横穴式石室である。未調査のため出土遺物も含めて詳細は不明である。前方部が短く退化傾向にあることや埴輪片も採集されていないことから、石神1号墳に後続して築造されたと推定される。青谷丸山1号墳の東南約70mの丘陵裾部には青谷丸山2～5号墳がある。墳丘の大半を削平されているが、地形測量図から10～13m程度の円墳と考えられる。石室の一部や石材の露出が認められることから、横穴式石室を埋葬施設とするものと考えられる。

11期中ごろには、長谷川の南側丘陵先端に黒土1号墳が築造される。黒土1号墳は直径約30mの円墳で、埋葬施設は巨石を使用した両袖式横穴式石室である。石室の全長は9.6mを測る。石室内からは、MT85～TK43型式の須恵器が出土している。また、羨門部の埋土から円筒埴輪片が出土している。黒土1号墳の東側丘陵頂部付近や南東側斜面には、黒土2～10号墳がある。丘陵頂部付近の4・5号墳は直径20m程度の円墳で、4号墳は既掘坑から横穴式石室と推定される。丘陵斜面の2・3・6～10号墳は10～13mの円墳で、石材の露出や既掘坑から横穴式石室と推定される。

茶臼塚古墳は、青谷川の南側丘陵稜線上に立地する直径約20mの円墳と推定される。埋葬施設は巨石を使用した両袖式横穴式石室で、石室の全長は11.6mを測る。石室は羨道の下半部を除いて石材が抜き取られていた。原位置を保った出土遺物はなく、石室入口付近でTK43型式の須恵器が出土している。石室に使用されている石材が黒土1号墳よりさらに大形化していることから、黒土1号墳に後続して築造されたと考えられる。

## 5. 南山城の他地域における後期有力首長墓の動向

### (1) 地域区分

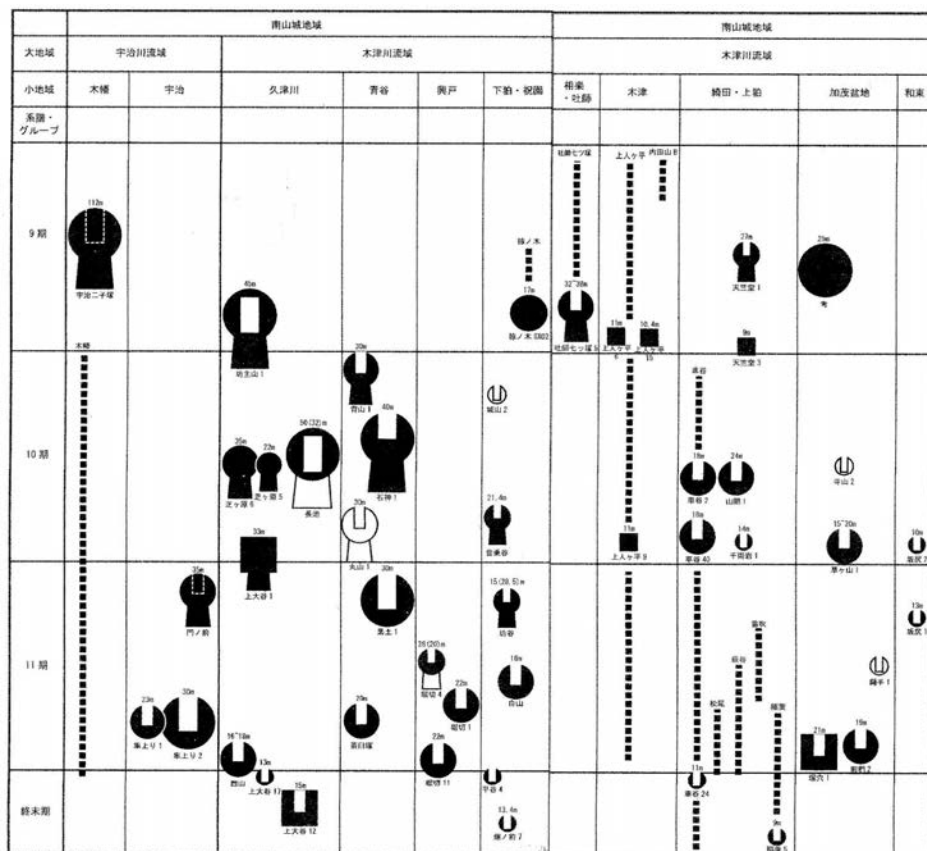
南山城の他地域については、宇治川流域と木津川流域に大きく二分する。宇治川流域は、木幡地域(宇治市)と宇治地域(宇治市)に区分する。木津川流域は、興戸地域(京田辺市)、下狛・祝園地域(精華町)及び相楽・吐師地域(木津川市)、綺田・上狛地域(木津川市)、加茂盆地地域(木津川市)に区分する。なお、木津川流域の男山・美濃山地域(八幡市)、大住地域(京田辺市)、飯岡地域(京田辺市)には前・中期の前方後円墳・前方後方墳を中心とした有力首長墓はみられるが、後期の有力首長墓はみられない。

### (2) 宇治川流域

#### ① 木幡地域(宇治市)

9期には二子塚古墳が、弥陀次郎川の扇状地に築造される。墳丘長が112m、外濠を含めた全長が218mの前方後円墳で、古墳時代後期の南山城地域では傑出した規模を誇る。





第3図 南山城地域後期有力首長墓編年  
 (『第22回京都府埋蔵文化財研究会発表資料集』古墳編年表を修正)

後円部に大型の横穴式石室が構築されていたが、後円部の土砂採取により破壊され詳細はわからない。前方部の墳丘盛土内からTK23~TK47型式の須恵器が出土している。

10~終末期には有力首長墓はみられないが、二子塚古墳の築造とほぼ同時に東側丘陵上に小型円墳120基以上からなる木幡古墳群が築造され始める。

②宇治地域(宇治市)

9~10期の有力首長墓はみられず、11期前半に丘陵裾部に墳丘長35mの前方後円墳である門ノ前古墳が築造される。墳丘は削平され、埋葬施設も不明である。周濠内からは円筒埴輪・形象埴輪やTK43型式の須恵器が出土している。

11期後半には、門ノ前古墳から北へ約800mの丘陵緩斜面に円墳の隼上り1号墳(径23m)と2号墳(径30m)が築造される。埋葬施設は、1号墳が全長約8.4mの両袖式横穴式石室、2号墳が全長9.15mの右片袖式横穴式石室で、TK43~TK209型式の須恵器が出土している。

(2)木津川流域

①興戸地域(京田辺市)

9～10期には有力首長墓はみられず、11期に丘陵稜線上に堀切4号墳が築造される。堀切4号墳は墳丘長約28mの前方後円墳(直径20mの円墳の可能性もあり)で、埋葬施設は横穴式石室(規模不明)である。TK43型式の須恵器が出土している。堀切1号墳は、堀切4号墳が位置する丘陵の東側丘陵稜線上に立地する直径約22mの円墳である。埋葬施設は全長9mの両袖式横穴式石室で、TK43～TK209型式の須恵器が出土している。堀切11号墳は、堀切1号墳の東南側丘陵斜面上に立地する直径約22mの円墳である。埋葬施設は全長8m以上の左片袖式横穴式石室で、TK209型式の須恵器が出土している。立地や墳形、出土した須恵器から4号墳→1号墳→11号墳の順で築造されたと考えられる。

終末期になると、普賢寺川の北側丘陵斜面上に下司1・2号墳と大御堂裏山古墳が築造される。下司1号墳は直径25m程度の円墳と推定されており、埋葬施設は全長8.55mの両袖式横穴式石室で、飛鳥Ⅱ～Ⅲ期の須恵器が出土している。下司2号墳は直径15m程度の円墳と推定されており、埋葬施設は全長7.56mの両袖式横穴式石室で、飛鳥Ⅰ期の須恵器が出土している。大御堂裏山古墳は墳丘や石室の大半が失われているが、直径15m程度の円墳と推定されており、埋葬施設は全長8～9mの両袖式横穴式石室で、飛鳥Ⅳ期の須恵器が出土している。出土した須恵器から、下司2号墳→下司1号墳→大御堂裏山古墳の順で築造されたと考えられる。

②下狛・祝園地域(精華町)及び相楽・吐師地域(木津川市)

台地状の丘陵に立地する吐師七ツ塚5号墳は、全長約39mの前方部が短い前方後円墳である。石室の一部とみられる石材が露出しているが、埋葬施設の詳細は不明である。Ⅴ期の円筒埴輪が出土しており、9期末～10期前半に築造されたと考えられる。

10期後半には、奈良山丘陵の先端に音乗谷古墳が築造される。音乗谷古墳は全長約22mの前方部が短い前方後円墳で、埋葬施設は全長3.7mの竪穴系横口式石室である。TK10型式の須恵器が出土している。

11期には、吐師七ツ塚5号墳から南へ約750mの丘陵稜線上に白山古墳が築造される。白山古墳は直径16mの円墳で、墳丘裾部に円筒埴輪が樹立される。埋葬施設は全長約2.3mの竪穴系横口式石室で、MT85型式の須恵器が出土している。埋葬施設が共通することから、音乗谷古墳に後続する有力首長墓と考えられる。

この他に、吐師七ツ塚5号墳から南へ約500mの丘陵稜線上に坊谷古墳が築造される。坊谷古墳は全長約29mの前方後円墳と推定されており、埋葬施設は全長3m以上の横穴式石室である。出土遺物が知られていないため、築造時期は明確ではないが、音乗谷古墳と

白山古墳の間を埋める有力首長墓の可能性を指摘しておきたい。

③ 綺田・上狛地域(木津川市)

古墳時代中期には有力首長墓はみられないが、9期には上狛の丘陵先端に上狛天竺堂1号墳が築造される。上狛天竺堂1号墳は、墳丘長約27mの前方部が短い前方後円墳で、後円部2段、前方部1段に築かれる。葺石はみられないが円筒埴輪・形象埴輪が樹立される。埋葬施設は、玄室長約3.6mの右片袖式横穴式石室である。TK47型式の須恵器が出土しており、南山城地域で最初に横穴式石室を導入した古墳である。上狛周辺では、上狛天竺堂1号墳に後続するような有力首長墓はみられない。

10期には綺田の丘陵上に車谷古墳群や山際古墳群などの群集墳が形成される。車谷古墳群では車谷2号墳(径約18mの円墳)・40号墳(径約18mの円墳)、山際古墳群では山際1号墳(径約24mの円墳)が築造される。これらは各群集墳での盟主墳と位置付けられる。

④ 加茂盆地地域(木津川市)

恭仁宮が造営された加茂盆地とその周辺では、古墳時代初頭に砂原山古墳が築造されるが、古墳時代前期・中期の有力首長墓はみられない。

考古墳は、加茂盆地の平地で唯一確認されている古墳である。直径約25mの円墳で、墳丘裾部に円筒埴輪が樹立され、墳丘には葺石が施される。墳丘が削平されているため、埋葬施設はわからない。円筒埴輪はV期のもので、9期に築造されたと考えられる。

加茂盆地の南東丘陵斜面に立地する草ヶ山1号墳は、直径約20mの円墳で、埋葬施設は竪穴系横口式石室と推定されている。出土遺物が知られていないため築造時期は不明であるが、竪穴系横口式石室をもつ音乗谷古墳から10期後半の築造と考えておきたい。

11期には、前柵2号墳が加茂盆地から南東にのびる谷地形の東側斜面先端に築造される。前柵2号墳は直径約20mの円墳で、全長9.5mの両袖式横穴式石室を埋葬施設とし、TK209型式の須恵器が出土している。

塚穴1号墳は、加茂盆地へ南から北流する赤田川東岸の丘陵南斜面に立地する。一辺約21mの方墳で、玄室長約3.3mの両袖式横穴式石室を埋葬施設とする。出土遺物は知られていないが、墳形や石室の壁面構成から11期末から終末期に築造されたと考えられる。

## 6. まとめ

### (1) 各時期の概要

#### ① 古墳時代中期(5～8期)

久津川古墳群の久世支群では、中期前半から中ごろ(5～7期前半)に大首長墓である久津川車塚古墳・芭蕉塚古墳や、有力首長墓である梶塚古墳・丸塚古墳・芝ヶ原11号墳・芝ヶ

原10号墳・青塚古墳・山道東古墳・芝ヶ原9号墳(現在は久世小学校古墳)が築造される。広野支群と富野支群には有力首長墓は存在せず、他の南山城地域においても円墳や方墳を墳形とする数基の有力首長墓が点在する程度である。これは、南山城地域の地域支配が、久津川車塚古墳・芭蕉塚古墳の大首長に集約されたことを示している。

大首長墓が姿を消す中期後半(7期後半～8期)には、久世支群では赤塚古墳(直径約32mの円墳)、富野支群では宮ノ平1号墳(一辺約25mの方墳)、宮ノ平2号墳(一辺約29mの方墳)、宮ノ平3号墳(直径約33mの円墳)が連続して築造される。赤塚古墳は、大谷川扇状地に立地することや造り出し付円墳という墳形から、丸塚古墳・山道東古墳の系譜に連なる有力首長墓と考えられる。富野支群の宮ノ平1～3号墳は、それまで有力首長墓がみられなかった大河原川の北岸丘陵に立地しており、大首長による地域支配の終焉後に新たに台頭した有力首長と考えられる。

### ②9期

久津川古墳群に有力首長墓はみられず、南山城全域でも木幡地域の二子塚古墳、綺田・上狛地域の上狛天竺堂1号墳、加茂盆地地域の考古墳のみである。

二子塚古墳の築造は、従来から指摘されているように、継体大王擁立に深く関わった地域首長の存在を示すものである。二子塚古墳の被葬者は継体大王のヤマト王権のもと、南山城地域の支配を担った大首長と考えられる。しかし、木幡地域では二子塚古墳築造以降、有力首長墓は存在しない。

綺田・上狛地域の上狛天竺堂1号墳は、中期に有力首長が存在しなかった地域に横穴式石室の構築という最新の技術を有した有力首長が新たに出現したことを示している。ただ、上狛天竺堂1号墳に続く有力首長墓はみられない。

### ③9期末～10期

久津川古墳群の広野支群と久世支群、青谷地域、下狛・祝園地域及び相楽・吐師地域で、前方後円墳を墳形とする有力首長墓が復活する。

広野支群では、坊主山1号墳が中期の金比羅山古墳に近接して築造され、中期の有力首長墓の系譜を引くと考えられる。後続する2号墳は、墳丘規模が縮小し円墳化する。

久世支群では、坊主山1号墳からやや遅れて芝ヶ原5・6号墳が築造される。芝ヶ原5・6号墳も、中期の芝ヶ原9～11号墳と近接して築造されることから中期の有力首長墓の系譜を引くと考えられる。前方後円墳の芝ヶ原6号墳と前方部が短い前方後円墳の芝ヶ原5号墳、円墳の芝ヶ原7号墳は、中期における大首長の前方後円墳(久津川車塚古墳・芭蕉塚古墳)と大首長を支えた最有力首長の前方部が短い前方後円墳(丸塚古墳)或いは造り出し付大型円墳(山道東古墳)や有力首長の円墳(芝ヶ原11・10・9号墳)を彷彿させ、支配地

域が縮小するものの、大首長による地域支配体制を継承している可能性がある。

前・中期に有力首長が存在しなかった青谷地域に、突如として横穴式石室を埋葬施設とする有力首長墓が築造される。横穴式石室の構築という最新の技術を有した有力首長が新たに出現したことを示している。この地域では青山1号墳→石神1号墳→青谷丸山1号墳と順に築造され、少なくとも3代の有力首長による地域支配が行われていたと思われる。

下狛・祝園地域及び相楽・吐師地域では前方部が短い前方後円墳を墳形とする吐師七ツ塚5号墳が9期末～10期前半、音乗谷古墳が10期後半に築造される。2代の有力首長による地域支配が行われていたと思われる。

#### ④11期

久津川古墳群では11期前半に上大谷1号墳(前方後方墳)が築造されるが、前期から連続と築造されてきた有力首長墓はこれ以降一旦途絶える。

青谷地域では、11期中ごろに南山城地域で最大級の横穴式石室を埋葬施設とする黒土1号墳が築造される。黒土1号墳は、久津川古墳群域も含めた地域の支配を行った有力首長と考えられる。後続する茶臼塚古墳は、井手町多賀地域を望む方向に石室が開口しており、さらに南側の井手町多賀地域も含めた広範囲の地域支配を行ったと考えられる。

宇治地域と興戸地域では、11期前半に南山城地域最後の前方後円墳として門ノ前古墳(宇治地域)と堀切4号墳(興戸地域)が築造される。11期後半には、隼上り1・2号墳(宇治地域)と堀切1・11号墳(興戸地域)が築造され、有力首長墓は円墳化する。

#### ⑤終末期

久津川古墳群と興戸地域を除いて、有力首長墓の造営は11期末に終焉する。

久津川古墳群では、11期末～終末期前半に広野支群で宇治西山古墳、久世支群で上大谷12・14・17号墳が築造される。これらの古墳は、それまで久津川古墳群ではみられなかった横穴式石室を埋葬施設としており、久津川古墳群を造営した有力首長の系譜とは隔絶した新たな有力首長が出現したことを示すものと考えられる。終末期末には、久世支群に尼塚5号墳が築造され、南山城地域での古墳築造は終焉を迎える。

興戸地域では、11期の堀切1・11号墳の系譜を引くと考えられる下司1・2号墳や大御堂裏山古墳が築造される。

#### (2)南山城地域における古墳時代後期の地域支配

最後に、有力首長による地域支配の動向を概観しておく。

中期後半には前方後円墳は築造されず、墳丘規模が30m前後の円墳や方墳(二子山北墳、二子山南墳、瓦塚古墳、赤塚古墳、宮ノ平1～3号墳、西山塚古墳、上人ヶ平5号墳など)が各地域に築造される。このことは、大首長(久津川車塚古墳・芭蕉塚古墳)による広範囲

の地域支配が中期中ごろで終焉し、ヤマト王権による直接的な地域支配が進んだことを示していると考えられる。

9期には継体大王と密接な関係にある大首長(二子塚古墳)による地域支配が一時的に復活する。一方南山城南部では、それまで有力首長が不在であった地域に横穴式石室構築という最新の技術をもった有力首長(上狛天竺堂1号墳)が突然出現する。ヤマト王権と密接な関係をもつ有力首長が、王権の意向を受けてこの地に入植したと考えられる。

10期～11期初めには各地域に前方後円墳が築造され、このことは各地域の有力首長による地域支配が復活したことを示すと考えられる。ヤマト王権が有力首長を直接支配下に置き、有力首長を介した間接的な地域支配を行ったと考えられる。久津川古墳群では、前・中期の有力首長の系譜を引く有力首長が再び地域支配を行う。有力首長が不在であった青谷地域にも、ヤマト王権と密接な関係をもつ有力首長が王権の意向を受けてこの地に入植したと考えられる。前期から連綿と地域支配を行う久津川古墳群の有力首長への牽制の意味合いもあったとも考えられる。

11期前半には、久津川古墳群では有力首長墓が姿を消す一方で、青谷地域ではこれまでにない大型の横穴式石室をもつ黒土1号墳が築造される。青谷地域の有力首長が、ヤマト王権を後ろ盾に久津川古墳群域も含めた地域支配を行ったと考えられる。宇治地域では前方後円墳に円筒埴輪・形象埴輪を樹立する門ノ前古墳が築造される。このことは、ヤマト王権の伝統的な墓制をこの時期まで継承する有力首長がいたことを示すものであろう。

11期後半も11期前半の有力首長の系譜を引く有力首長による地域支配が続くが、久津川古墳群と興戸地域を除いて11期末で有力首長による地域支配は終焉する。このことはヤマト王権による直接的な地域支配が再び進み、のちに確立する律令制による中央集権的な地域支配へと繋がっていくと思われる。

興戸地域では、有力首長がヤマト王権と密接な関係をもつことで引き続き地域支配を担っていたと考えられる。7世紀後半に有力首長墓が立地する丘陵の西側丘陵上に普賢寺の前身寺院として筒城寺が創建されることも、このことを示していると思われる。

久津川古墳群域では、墓域として土地利用が行われていた扇状地や丘陵上に6世紀末から新たな集落が形成され、7世紀から8世紀に拡大していく。このことから、新たな有力首長が、ヤマト王権主導のもとに多くの人々を率いてこの地に入植し、地域支配を行ったと考えられる。また、新たな有力首長は官人的な性格を持っていたとも考えられる。このことは、ヤマト王権が南山城地域における地域支配の重要拠点として久津川古墳群域を認識していたことを示すものと思われる。8世紀に久世郡衙(正道遺跡)が設置され、また久世廃寺・平川廃寺・広野廃寺が造営されることもその現れであろう。

(こいずみ・ひろし=当調査研究センター主査)

参考文献

- 一瀬和夫・福永伸哉・北條芳隆 編 2011『古墳時代の考古学』 1 古墳時代史の枠組み 同成社
- 宇治市教育委員会 1998 「菟道門ノ前古墳・菟道遺跡発掘調査報告書」『宇治市文化財調査報告』第5冊
- (財)元興寺仏教民俗資料研究所考古学研究室 1977「京都府城陽市上大谷古墳群の調査－試掘調査報告書－」『考古学研究室調査報告』第1冊
- (公財)京都府埋蔵文化財調査研究センター 2021『芝山遺跡・芝山古墳群第20・21次』記者発表資料
- 京都府埋蔵文化財研究会 2000「京都の首長墳」『第8回京都府埋蔵文化財研究会発表資料集』
- 京都府教育委員会 1965『埋蔵文化財発掘調査概報』
- 京都府教育委員会 2003『京都府遺跡地図〔第3版〕』第3分冊
- 京都府埋蔵文化財研究会 2015「古墳時代後期における地域首長墓造」『第22回京都府埋蔵文化財研究会発表資料集』
- 小池寛 1991「南山城地域の後期古墳の一樣相－城陽市・長池古墳を中心として－」『京都府埋蔵文化財情報』第40号 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター
- 小池寛 2014「京都府南山城地域における古墳出現期の一樣相」『京都府埋蔵文化財情報』第124号 (公財)京都府埋蔵文化財調査研究センター
- 小泉裕司 2005「久津川古墳群の範囲と構成の再検討」『龍谷大學考古学論集』Ⅰ 龍谷大學考古学論集刊行会
- 小泉裕司 2020「久津川古墳群の再検討－最近の発掘調査及び研究成果から－」『龍谷大學考古学論集』Ⅲ 龍谷大學考古学論集刊行会
- 古代の土器研究会 1992『古代の土器1 都城の土器集成』
- 城陽市教育委員会 1977『城陽市埋蔵文化財調査報告書』第6集
- 城陽市教育委員会 2010『城陽市埋蔵文化財調査報告書』第60集
- 城陽市教育委員会 2012『城陽市埋蔵文化財調査報告書』第64集
- 城陽市役所 1999『城陽市史第三巻』
- 城陽市役所 2002『城陽市史第一巻』
- 田辺昭三 1981『須恵器大成』角川書店
- 同志社大学校地学術調査委員会 1985『下司古墳群』
- 和田晴吾 1987「古墳の時期区分をめぐって」『考古学研究』第34号第2巻